

HITACHI

Reliable Solutions

2025年3月期第2四半期 決算説明会

2024年10月25日

 日立建機株式会社

LANCROS Japanese Excellence—Reliable Solutions

社長の先崎です。

需要、決算の説明に先立ち、目下の状況を総括して、わたくしより一言、ご挨拶申し上げます。

今回の第2四半期決算は、営業外の利益項目を除いて、為替効果を含めればほぼ想定内の結果となりました。注力するマイニングやバリューチェーン事業は引き続き堅調です。独自展開を進める米州、特に、北米の一般建機市場での停滞や、代理店の在庫縮減の影響によって米州事業が対前年で減収となる中、全社売上収益は同額を確保することができました。営業外の利益項目については、9月末の一時的かつ急激な円高もあって前年同期比で減益ですが、総論として、厳しい需要環境の中で中期経営計画の各施策展開が着実にできています。

為替の追い風もあり、ほぼ想定内で進捗しています。

年度見通しについては、投資意欲の停滞から、現時点では北米需要は年度内の回復を見通しづらい状況となっています。こうした状況を踏まえ、今回、下期の北米の売上収益予想を見直し、年度全体の業績予想を下方修正いたしました。

しかし北米市場では、この需要環境でもリテールシェアを順調に伸ばしています。独自事業は現地通貨ベースでも伸長できる見込みであり、独自展開開始以降の取り組みが、着実に実を結びつつあります。また、注力してきたバリューチェーン事業も、年度当初の計画を上回るペースで拡大しています。

足下の状況は厳しいですが、米州、バリューチェーン、マイニングの3つの分野の長期的な成長により、収益構造の改善は着実に進んでいます。

中計を締めくる来年度とその先に向けて、3分野にさらに注力し、逆風に怯まずに、さらに強靱な収益体質の実現をめざします。こうした進捗を背景に、株主還元についても、期初の年間計画を維持し、増配を計画しております。

どうぞご支援、宜しくお願いします。

1. 地域別市場環境と見通しについて

執行役常務兼CMO

松井 英彦

地域別市場環境と見通しについて、松井よりご説明します。

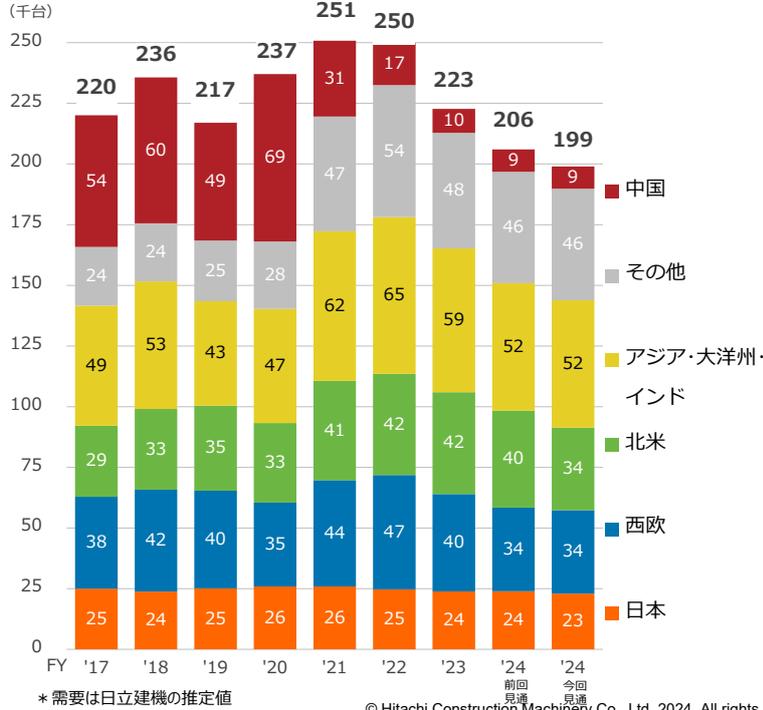
油圧ショベル世界需要推移

HITACHI

Reliable Solutions

新興国比率：24年度 54%（前年比+2%）

※新興国：中国、アジア・大洋州・インド、その他



地域別需要対前年増減

※当社推定 中国国産メーカー含まず
※複写・転用はご遠慮下さい

	'23	'24
合計	-11%	-11%
中国	-43%	-6%
ロシア・CIS・東欧	-16%	-4%
アフリカ	+13%	-15%
中東	+10%	-13%
中南米	-33%	+14%
その他	-12%	-4%
アジア	-17%	-8%
インド	+8%	-16%
オセアニア	-18%	-10%
アジア・大洋州・インド	-8%	-12%
北米	+1%	-19%
西欧	-15%	-14%
日本	-3%	-4%

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

3

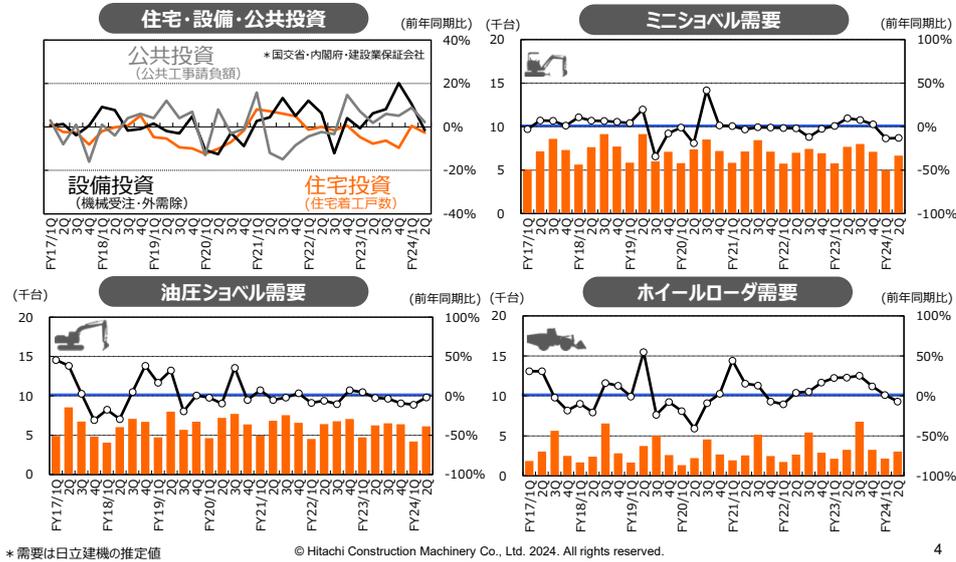
3ページ目で、油圧ショベルの世界需要見通しについてご説明申し上げます。

24年度の需要は、前回7月の見通しから、北米と日本で需要が減少しております。

23年度に対し、西欧を中心に新興国、日本で引き続き減少、北米では大幅に減少し、全世界合計では、前年比11%減の19万9千台となります。

次に、各地域別に第2四半期の結果についてご説明申し上げます。

- 住宅投資、設備投資微減、公共投資微増。
- 油圧需要は減少幅が縮小：前年同期比 油圧 Δ 2%、ミニ Δ 13%、WL Δ 7%



次は4ページ目。日本市場です。

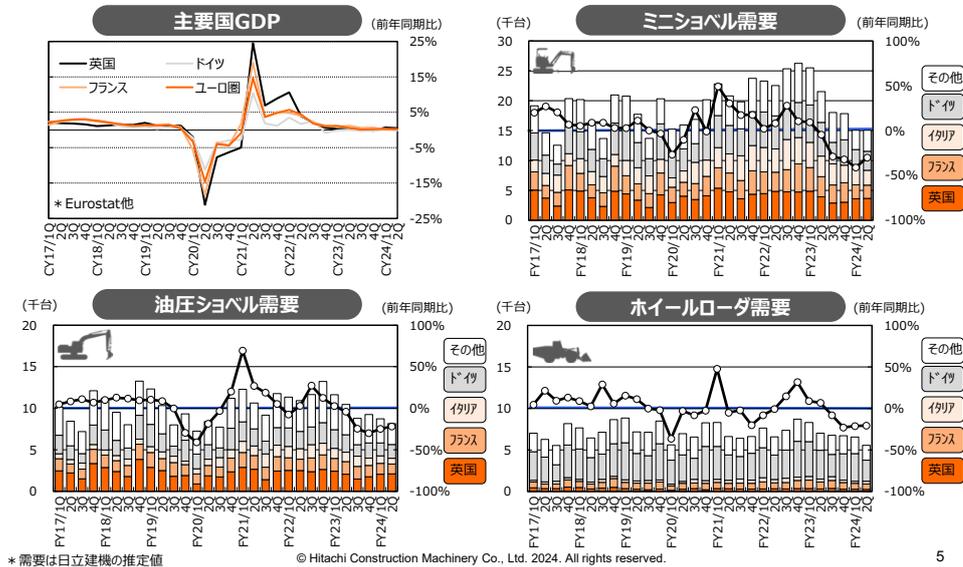
左上、第2四半期の住宅投資と設備投資は微減、公共投資は微増となります。

左下、第2四半期の油圧ショベル需要は、前期から減少幅は縮小しますが、前年同期比で2%減となります。

右上、ミニショベルは13%減。

右下、ホイールローダーは7%減となります。

- 24年2QのGDPは引き続き低成長
- 油圧需要は大幅減：前年同期比 油圧 Δ 22%、ミニ Δ 30%、WL Δ 21%



次は5ページ目。欧州市場です。

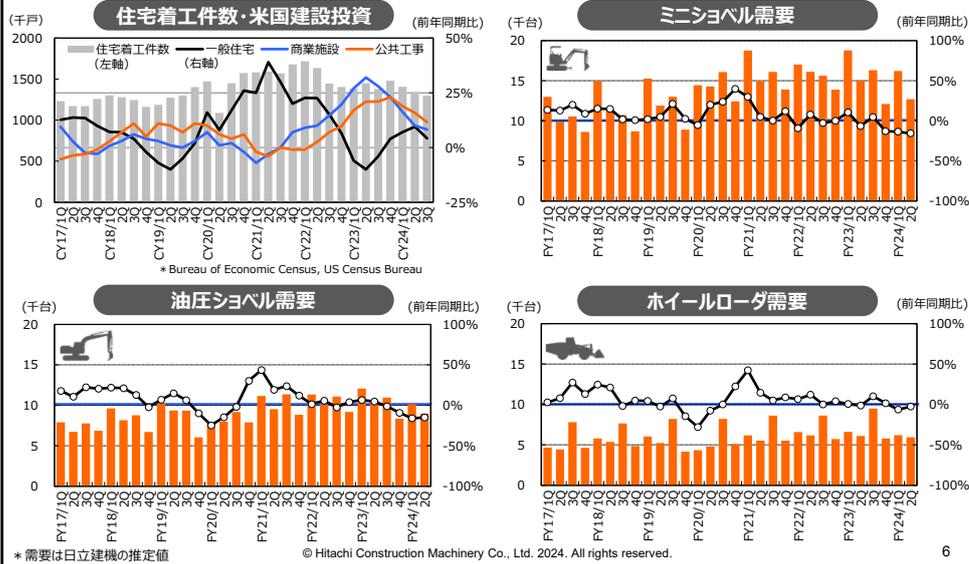
左上、主要国GDPはインフレ継続と金利高止まりの影響もあり、ユーロ圏全体で低成長が続いております。

左下、第2四半期の油圧ショベル需要は、継続する市場停滞により前年同期比で22%の大幅減となります。

右上、ミニショベルは30%減。

右下、ホイールローダーについてもドイツを中心に大幅減となり、21%減となります。

- 一般住宅、商業施設、公共工事は共に増加も増加幅が縮小、住宅着工件数は減少。
- 油圧需要は減少：前年同期比 油圧 △15%、ミニ △16%、WL △3%



次は6ページ目。北米市場です。

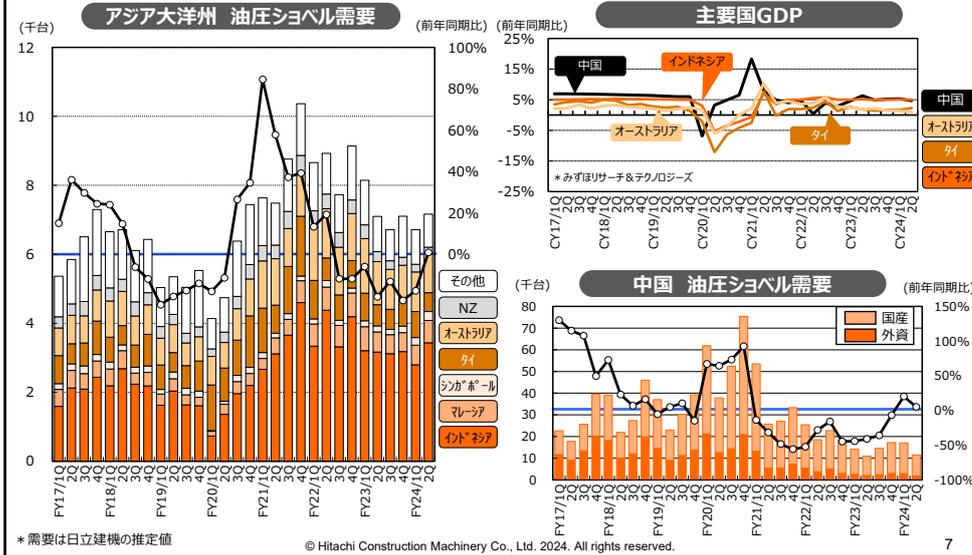
左上、住宅着工件数は、前期から減少し、一般住宅投資、商業施設投資、公共工事共に前年同期比で増加するも、増加幅は縮小しております。

左下、第2四半期の油圧ショベル需要は、前年同期比で15%減となり、需要減が続いております。

右上、ミニショベルは16%減となります。

右下、ホイールローダーについては3%減となります。

- アジア大洋州の油圧需要は前年同期比 +1%
- 中国の油圧需要は前年同期比 +5%(国産+8%,外資△6%)



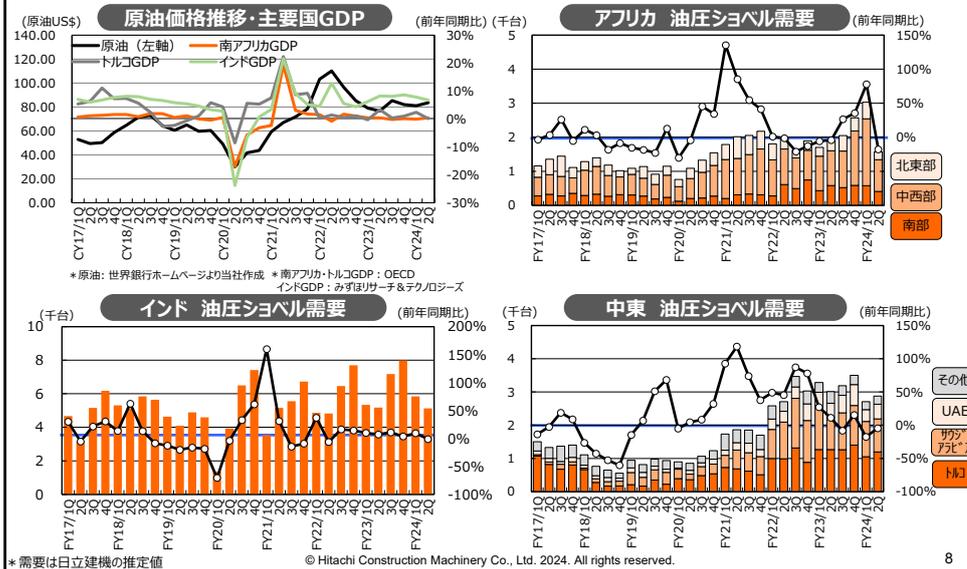
次は7ページ目。アジア大洋州、中国市場です。

右上、主要国のGDPについては、各国ともにプラス成長を維持しているものの、オーストラリア・タイは引き続き低成長。中国も、景気の回復は力強さを欠く状況となっています。

左側、アジア大洋州の第2四半期の油圧ショベル需要は、インドネシアでの需要増もあり前年同期比で1%増となります。

右下、中国の油圧ショベル需要については、国産機を含めた全需要で5%増となります。内訳として国産機需要は8%増、外資は6%減となります。

■ インドの油圧需要は前年同期比△1% ■ アフリカの油圧需要は前年同期比 △18%
 ■ 中東の油圧需要は前年同期比△4%



次は8ページ目。インド・中東・アフリカ市場です。

左上、原油価格は前期から増加し83ドルとなりましたが、足元では75ドル程度となります。

主要国GDPについては、インドは増加、トルコと南アフリカは微増となります。

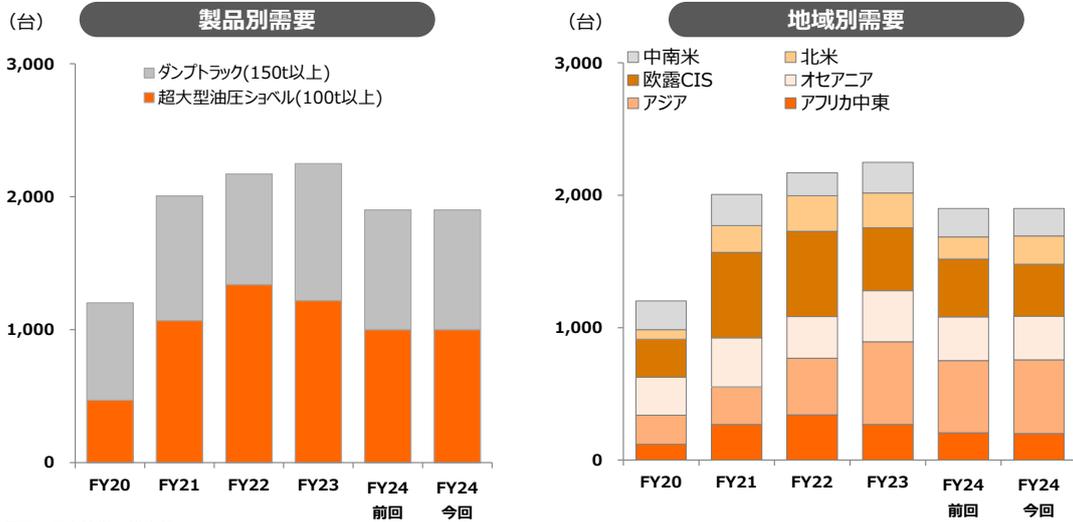
左下、インドの第2四半期の油圧ショベル需要については前年同期比で1%減となります。

右上、アフリカの油圧ショベル需要は18%減となります。

右下、中東の油圧ショベル需要は、高需要となっていた前年同期と比較すると4%減となります。

- 24年度需要見通しは、前回見通しから変更なし（前年比△5%～△15%）
- 中国の需要は100tクラスショベルを中心に依然堅調、インドネシアは下げ止まった

超大型油圧ショベル(100t以上)、ダンプトラック(150t以上)



次は9ページ目、マイニング機械の需要見通しです。

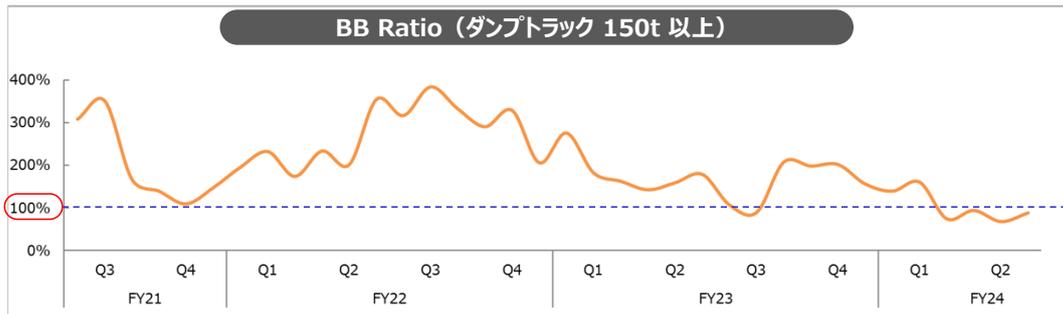
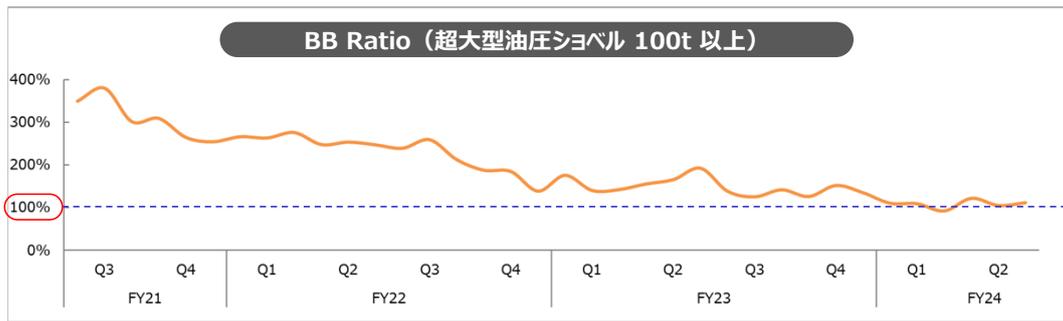
24年度のマイニング需要見通しは、前年比△5%～△15%と前回見通しからの変更はありません。

地域別では、中国は100tクラスショベルを中心に依然堅調、インドネシアは資源輸出企業への外貨預金引き上げ規制の影響により需要が停滞していましたが、各社対応完了し、購入活動が再開され、需要は下げ止まりました。

補足 : BB Ratio

HITACHI

Reliable Solutions



※Book-to-Bill(BB)Ratio = Booking(受注額)/ Billing(出荷額)

当社単独の受注・出荷額の6ヶ月平均

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

10

続いて10ページ目、BBレシオです。

第2四半期の超大型ショベルは米州、オーストラリア、中央アジアを中心に新規受注があり100%以上を維持しました。

ダンプトラックは、北米、オーストラリアで受注が進み、まだ100%を下回ってはいますが、前回からは改善しております。

現地在庫のエンド受注も進捗しており、今後在庫用機械の発注が進むと推測します。

トピック(1) : 米州事業体制の強化

HITACHI

Reliable Solutions

北米西部向けのソルトレイクシティ部品倉庫を稼働開始（2024年10月）

- 北米東部は2拠点分散からジャクソン部品倉庫に集約予定、効率向上へ



丸紅と共同でブラジルに鉱山機械の販売・サービス会社を設立（2025年1月予定）

- 超大型油圧ショベルの豊富な納入実績があるブラジルを契機に、南米のマイニング事業を伸長



次にトピックについてご説明します。まずは、米州事業体制の強化です。

日立建機は、10月より北米の西部向けにソルトレイクシティ部品倉庫の稼働を開始しました。同倉庫では約3万点の部品を取り扱います。

部品倉庫を最適な場所に設置することで、リードタイムの短縮を図り、北米全域に迅速に供給します。

またメイン倉庫である既存のジャクソンおよびマクドノーの部品倉庫については2拠点体制を、来年1月を目途に、ジャクソン部品倉庫に集約します。

一方、中南米でマイニング事業の販売・部品サービス拡大に向けた施策第一弾として、日立建機は丸紅と共同でブラジルに鉱山機械の販売・サービス会社「ザミン・ブラジル社」を2025年1月に設立する予定です。

丸紅は2017年から日立建機の鉱山機械を取り扱っており、ブラジルでの超大型ショベルの納入実績は約80台と豊富です。

丸紅のブラジルにおける長年の事業ノウハウ・顧客ネットワークに加え、日立建機が建設機械メーカーとして、万全な保守・サービスを提供することで超大型油圧ショベルの豊富な納入実績があるブラジルを契機に、南米のマイニング事業を伸長します。

世界最大級の鉱山機械見本市「MINExpo」に自社で初出展（2024年9月）

- ・ 米州の独自展開後初出展、ニューコンセプト「LANDCROS」も普及開始
- ・ お客さまや業界関係者を招きパネルディスカッションを実施、「オープン・ソリューション」を模索



カザフスタンで鉱山機械のコンポーネント再生工場を稼働開始（2024年10月）

- ・ 日立建機が指導し、再生工場として認定、中央アジア市場で部品サービス事業も強化
- ・ 再生部品の活用によるリードタイム短縮、資源循環型ビジネスモデルの確立をめざす



次にマイニング事業に関するトピックをご紹介します。

9月24日から26日にアメリカ・ラスベガスで開催されたMINExpoに出展しました。MINExpoはマイニング関連で世界最大級の展示会であり、当社の米州事業の独自展開が始まってから初めての出展です。ブースでは「ゼロ・エミッション」、「ゼロ・エントリー」、「ゼロ・ダウンタイム」の3つの「ゼロ」をテーマに展示をしました。展示した車体の運転室には今年7月に制定したニューコンセプト「LANDCROS」のステッカーを貼り、普及・促進に取り組みました。

もうひとつは中央アジアにおける再生事業体制強化のトピックです。ユーラシアン マシナリー社が、10月、カザフスタンのカラガンダ地区にある鉱山機械 修理センターを機能強化し、日立建機認定の部品再生工場として稼働開始しました。中長期的に成長を見込む中央アジア地域において再生部品を活用することでリードタイムを短縮し、資源循環型ビジネスモデルの確立をめざします。

トピック(3) : 中・小型建機の電動化を推進

HITACHI

Reliable Solutions

バッテリー駆動式ショベルと可搬式充電設備を国内販売 (2024年9月)

- 欧州市場におけるシェアトップ*のノウハウを活用し、
施工現場のゼロ・エミッション化を実現するソリューションをシステムとして提供



ZE85 (8tクラス) と可搬式充電設備



バッテリー残量を示すモニタ



ZX55U-6EB
(5tクラス)



ZE135 (13tクラス)

*出典 : Off-Highway Research, CY23 7t以上クローラショベル対象

米ディマージ社と1.7tクラスのバッテリー駆動式ショベルを開発 (2024年9月)

- さまざまな電動製品に活用できる高出力交換式バッテリーモジュールと充電器を採用



交換式バッテリーの挿入部



1.7tクラス 試作機

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

13

最後に、コンパクト・コンストラクションにおける電動化の取り組みについて紹介します。

9月より、日立建機は5t・8t・13tクラスのバッテリー駆動式ショベル3機種と、可搬式充電設備の国内販売を開始しました。

バッテリー駆動式ショベルはいずれも欧州市場で展開しているモデルで、可搬式充電設備は九州電力と共同開発したものです。

当社は昨年、欧州市場における7t以上のバッテリー駆動式ショベルでトップシェアとなりました。これらのノウハウを活用しながら、施工現場のゼロ・エミッション化を実現するべく、ソリューションを提供していきます。

また、アメリカ・シリコンバレーのスタートアップ デイマージ社と1.7tクラスのバッテリー駆動式の電動ショベルの開発で協業します。

日立建機製のミニショベルに、デイマージ社の電動化システムを組み込んだ試作機を年内に完成させる計画です。

デイマージ社のバッテリーモジュールは交換式で汎用性が高く、芝刈り機などさまざまな電動製品にも活用可能です。

今回の協業を通じて、電動建機のラインアップの拡充を図っていきます。

2. 2025年3月期 第2四半期 決算説明

執行役常務兼CFO

塩嶋 慶一郎

続いて、CFOの塩嶋でございます。どうぞ宜しくお願い致します。

私から、24年度第2四半期の決算、並びに同年度通年業績予想の概要をご説明致します。

連結決算の概要

HITACHI

Reliable Solutions

当第2四半期の売上収益は、前年同期比で横ばいも、製品地域構成差と施策的経費の増加にて、調整後営業利益は13%減益。営業外では9月末の為替円高影響による金融収支の悪化により、親会社株主に帰属する中間利益は45%減益。

(単位：億円)

	24年度 第2Q累計	23年度 第2Q累計	前年同期比 増減率
継続事業			
売上収益	6,657	6,658	△0%
調整後営業利益 *1	(10.7%) 713	(12.4%) 824	△13%
営業利益	(10.6%) 708	(12.4%) 829	△15%
税引前中間利益	(8.2%) 545	(12.7%) 848	△36%
継続事業からの中間利益	(5.3%) 351	(9.4%) 627	△44%
非継続事業からの中間利益	11	0	-
親会社株主に帰属する 中間利益	(4.8%) 317	(8.6%) 575	△45%
EBIT *2	(9.2%) 612	(13.5%) 900	△32%
為替			
アメリカドル	152.7	140.9	11.8
ユーロ	166.0	153.5	12.5
中国元	21.1	19.7	1.4
オーストラリアドル	101.3	93.3	8.1
1株当たり配当金 *3	65円	85円	△20円

*1 [調整後営業利益]は、「売上収益－売上原価－販売費及び一般管理費」により計算している利益指標です。

*2 [EBIT]は、税引前中間利益から、受取利息の額を減算し、支払利息の額を加算して算出した指標です。(EBIT=Earnings before interests and taxes)

*3 [1株当たり配当金]は、連結業績に運動した剰余金の配当を原則として、中間と期末の2回に分けて同一年度に2度実施する方針であり、

連結配当性向30%~40%を目安に安定的かつ継続的に実施することを基本として株主利益の最大化を図ります。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

15

先ず、P.15 『連結決算の概要』をご覧ください。

24年度第2四半期累計期間の売上収益は、各地域で需要が減少する中でも、対前年同額の6,657億円を確保しました。

利益面では米国の市況不振長期化が顕在化して、調整後営業利益が、前年比13%減の713億円、利益率10.7%、営業利益は708億円で利益率10.6%となりました。

欧州、アジアに続き、米州も需要減となった厳しい環境下でしたが、マイニング、並びにバリューチェーン事業は伸長し、売上収益は前年レベルを堅持した一方、物量減少、製品・地域構成差と施策的経費の増加で調整後営業利益が悪化したものです。

また営業外では、期末の急激な円高進行によって、新興国の債権を中心に一時的に為替の評価損を計上したことも税引前損益以下に大幅な減益影響を及ぼしました。これは一時的な特殊要因と考えており、下期には大きな影響はないものと見ています。

尚、中間配当につきましては、本日の弊社取締役会にて4月時の予想に準じ、1株当たり65円と決議しました。

また、当累計期間の為替レートは前年比で米ドルが11.8円、ユーロが12.5円、元が1.4円、オーストラリアドルも8.1円と、いずれも円安でした。

連結地域別売上収益

HITACHI

Reliable Solutions

オセアニア、アフリカで増収も、欧州、アジア、北米の減収により連結合計では前年同期比で横ばい。

(単位：億円)

	24年度 第2Q累計		23年度 第2Q累計		前年同期比		
	金額	増減率	金額	増減率	金額	増減率	
日本	998	15%	1,022	15%	△ 23	△2%	
アジア	536	8%	619	9%	△ 82	△13%	
インド	371	6%	355	5%	16	4%	
オセアニア	1,412	21%	1,288	19%	124	10%	
欧州	780	12%	907	14%	△ 126	△14%	
米州	北米	1,466	22%	1,547	23%	△ 81	△5%
	中南米	237	4%	188	3%	49	26%
	1,703	26%	1,734	26%	△ 32	△2%	
内：独自展開	(946)	(14%)	(992)	(15%)	(△45)	(△5%)	
ロシアCIS	96	1%	134	2%	△ 38	△29%	
中東	199	3%	155	2%	44	29%	
アフリカ	413	6%	291	4%	122	42%	
中国	148	2%	153	2%	△ 5	△3%	
合計	6,657	100%	6,658	100%	△ 0	△0%	
海外売上収益比率	85%		85%				

* 23年度及び24年度の実績について継続事業のみの値としています。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

16

次に、P.16『連結 地域別売上収益』をご覧ください。

地域別では、堅調なマイニング需要を背景にオセアニア、アフリカで前年比増収を確保した一方、欧州、アジア、並びに北米で減収となりました。

尚、為替円安の影響は、393億円の増収と分析しております。

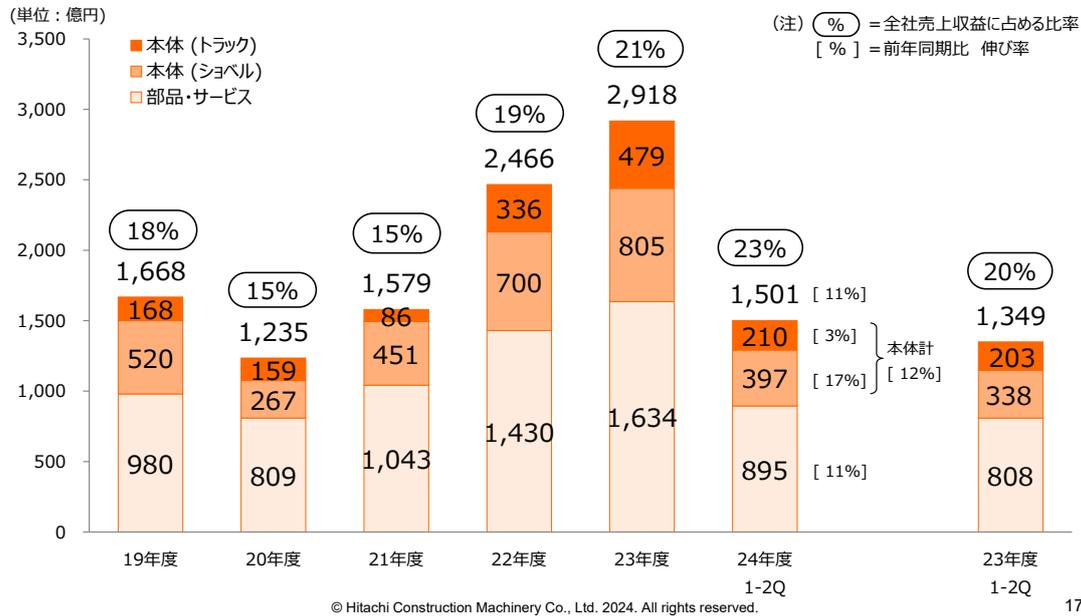
海外売上収益比率は前年比同レベルの85%で推移しました。

マイニング売上収益推移

HITACHI

Reliable Solutions

トラック、ショベル、部品・サービス全てで増収。



続いて P.17 『マイニング売上収益推移』をご覧ください。

当累計期間のマイニング売上収益は、右側から2本目の棒グラフに示した通りに1,501億円と、前年比11%の大幅な増収でした。

本体売上においては、トラックが主にアフリカ、中南米の貢献で前年比3%の増収、ショベルもオセアニア、中国、アフリカの貢献で17%の増収となりました。

また、部品サービスも当社が得意とするオセアニアやアフリカに加えて、注力している中南米での貢献が大きく、11%の増収となったことから、上期実績として過去最高の収益を記録しました。中南米が伸長し始めたのはとても良い傾向と見ています。

尚、連結売上収益に占めるマイニングの比率は23%と、前年比で3ポイント増加しました。

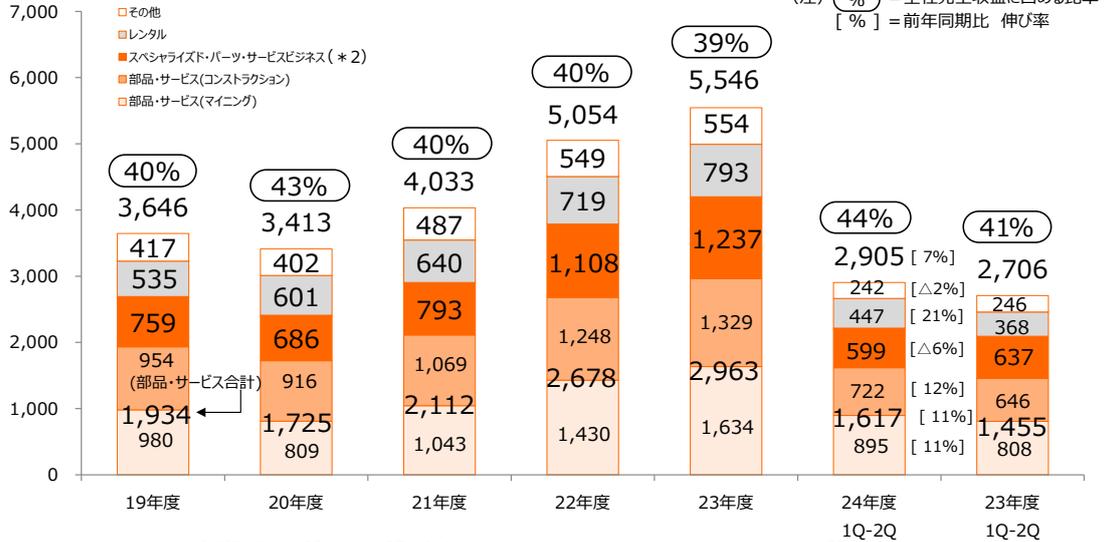
バリューチェーン*1 売上収益推移

HITACHI

Reliable Solutions

部品・サービス、レンタルが大きく伸長。

(単位：億円)



*1 バリューチェーン：新車販売以外の事業である部品・サービス、スペシャライズド・パーツ・サービスビジネス、レンタル等の事業合計
 *2 スペシャライズド・パーツ・サービスビジネス：建設機械ビジネスセグメントに含まれないマイニング設備及び機械のアフターセールスにおける部品開発、製造、販売及びサービスソリューションの提供
 19年度実績より継続事業のみの値として、遡及修正しています。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

18

続いてP.18『バリューチェーン』の状況です。

同じく右から2本目の棒グラフをご覧ください。

当累計期間のバリューチェーン売上収益は、ご覧の通りに、前年比7%増の2,905億円でした。

主力の部品サービス収益が順当に前年比11%の増収となった他、注力している北米事業で、レンタルでも新たに連結化した北米子会社の貢献等で21%の増収を確保したことから、バリューチェーン事業の上期実績として過去最高収益を記録しました。

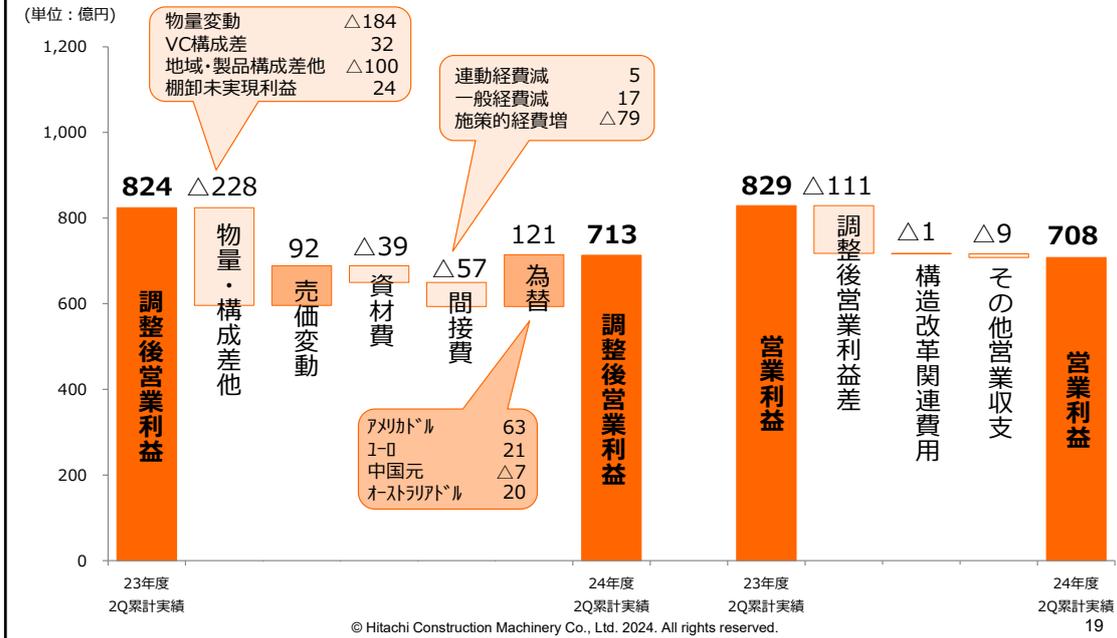
連結売上収益に占めるバリューチェーン比率も44%と、前年比で3ポイント増加しました。新車販売が厳しい中、着実にバリューチェーン事業も貢献してくれています。

連結損益変動要因

HITACHI

Reliable Solutions

資材費、間接費増を売価改善で吸収するも、物量・構成差他の要因が大きく、調整後営業利益は減益。



続いてP.19は当累計期間の『連結損益変動要因』です。

調整後営業利益が、前年比111億円の減益となった内訳となります。

なお、「物量・構成差他」の吹出では、今回より記載を変更し、従来は地域製品構成差他に含んでおりました棚卸未実現利益を別項目に区分しておりますので、ご了承ください。

まず、左端、物量・構成差として、228億円の減益要因と分析しております。

吹出内に表記しております通り、物量減が184億の減益要因でした。

バリューチェーン構成差で32億の増益となった一方、利益率の比較的高い北米や欧州、アジアでの売上減で、地域・製品構成差他が悪化し、100億減益したことが大きな要因です。

一方、資材費増39億円、並びに人件費、研究開発費等の間接費増57億円の減益要因を、92億円の売価アップでほぼ吸収することができました。

これらの結果、調整後営業利益は、前年比 111億減益の713億円となりました。

ページ右側、営業利益も調整後営業利益の減益により、前年比121億の減益となる、708億円となりました。

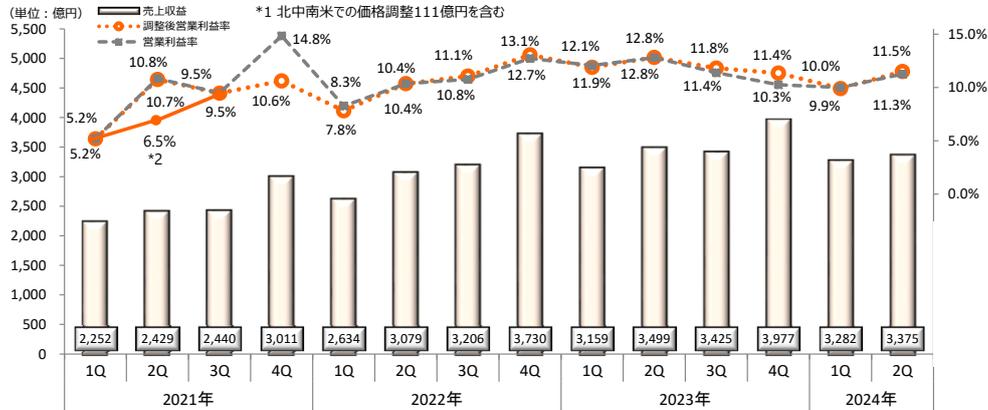
要約連結 四半期別売上収益・営業利益（率）

HITACHI

Reliable Solutions

(単位:億円)

	2021年				2022年				2023年				2024年	
	1Q	2Q*1	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上収益	2,252	2,429	2,440	3,011	2,634	3,079	3,206	3,730	3,159	3,499	3,425	3,977	3,282	3,375
調整後営業利益	117	261	231	320	206	319	355	487	376	449	405	451	325	388
営業利益	117	263	232	447	218	319	345	475	381	448	390	408	328	380



四半期別為替レート	2021年				2022年				2023年				2024年	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
アメリカドル	109.5	110.1	113.7	116.2	129.6	138.4	141.6	132.3	137.4	144.6	147.9	148.6	155.9	149.4
ユーロ	132.0	129.8	130.1	130.4	138.1	139.3	144.3	142.1	149.5	157.3	159.1	161.3	167.9	164.0
中国元	17.0	17.0	17.8	18.3	19.6	20.2	19.9	19.3	19.6	19.9	20.4	20.6	21.5	20.8
オーストラリアドル	84.3	80.9	82.9	84.0	92.6	94.5	92.9	90.6	91.8	94.7	96.3	97.7	102.7	100.0

21年度実績より継続事業のみの値として、適及修正しています。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

20

続いて、P.20は四半期別の業績推移です。

一番右側の24年度第2四半期をご覧ください。

当四半期の売上収益3,375億円、並びに調整後営業利益388億円は、コンストラクション主力市場の北米、欧州、アジアでの需要減による新車販売物量減により前年同期比で夫々、124億、61億の減収、減益となりましたが、調整後営業利益率は11.5%と直近の2四半期より改善しました。

過去数年の米州事業などの注力事業拡大により、トップラインが3千億円を超えて、ボリュームが享受でき、市況が不振の中でもそれなりに稼ぐ力がついてきたと自己評価しています。

要約連結財政状態計算書

HITACHI

Reliable Solutions

営業債権、棚卸資産の縮減、為替円高影響により総資産が前年度末比で825億円の減少。

(単位：億円)

	(A) 24年2Q	(B) 23年度末	(C) 23年2Q	(A)-(B) 増減		(D) 24年2Q	(E) 23年度末	(F) 23年2Q	(D)-(E) 増減
現金及び現金同等物	1,447	1,435	1,047	11	営業債務及びその他債務合計	2,404	2,894	2,919	△490
営業債権	2,402	3,057	2,850	△655	社債及び借入金	5,540	5,756	5,370	△215
棚卸資産	5,434	5,523	5,520	△89	負債の部合計	9,362	10,206	9,813	△844
流動資産計	10,036	10,776	10,001	△740	(親会社所有者帰属持分比率)	(43.9%)	(41.6%)	(41.8%)	(2.3%)
非流動資産合計	7,490	7,575	7,607	△85	資本の部合計	8,163	8,144	7,795	19
資産の部合計	17,525	18,350	17,608	△825	負債・資本の部合計	17,525	18,350	17,608	△825
非流動を含めた営業債権	2,850	3,529	3,294	△679					
棚卸資産 内訳						(31.6%)	(31.4%)	(30.5%)	(0.2%)
本体	2,192	2,297	2,019	△104	有利子負債計	5,540	5,756	5,370	△215
部品	1,692	1,728	1,728	△36	現金及び現金同等物	1,447	1,435	1,047	11
その他	1,550	1,499	1,772	51	ネット有利子	(23.4%)	(23.5%)	(24.6%)	(△0.2%)
棚卸資産計	5,434	5,523	5,520	△89	負債	4,094	4,321	4,324	△227
手持日数 (分母は売上収益)				(単位：日)	ネットD/Eレシオ	0.53	0.57	0.59	△0.03
営業債権 (非流動含む)	74	92	87	△18					
棚卸資産	141	143	147	△2					
営業債務	33	44	45	△11					
正味運転資金	178	187	184	△9					

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

21

続いて、P.21は24年9月末の『連結貸借対照表』です。

前年度末24年3月末比較では、営業債権を679億、棚卸資産も89億円縮減しました。また、非流動資産においても投資抑制に為替換算影響も加わり、85億縮減したことから、総資産は1兆7,525億円と、前年度末より825億縮減しました。

在庫圧縮に注力し、工場の生産調整を進めたこともあり、第2四半期では577億の削減が進んだ結果、手持日数では、営業債権を74日と前年度末より18日短縮、棚卸資産も141日と2日短縮しました。

この結果、正味運転資金手持日数は前年度末よりも9日短縮した178日となりました。

右側の有利子負債は、前年度末より215億縮減、ネット有利子負債も227億縮減の4,094億円となりました。

資本合計は8,163億円で、親会社所有者帰属 持分比率は43.9%、ネットD/Eレシオは0.53と改善しました。

連結キャッシュ・フロー

HITACHI

Reliable Solutions

営業キャッシュ・フロー、フリーキャッシュ・フローはポジティブ、前年同期比でも大幅改善。

(単位：億円)

	24年度 第2Q累計		23年度 第2Q累計		前年同期比 増減額	
中間利益（非継続事業含む）		362		627		△ 265
減価償却費	730	369	956	329	△ 225	40
売掛金及び受取手形の増減		636		330		307
棚卸資産の増減	281	70	△ 337	△ 676	618	745
買掛金及び支払手形の増減		△ 426		9		△ 434
その他		△ 367		△ 337		△ 31
営業活動に関するキャッシュ・フロー		644		281		362
営業キャッシュ・フロー・マージン率		9.7%		4.2%		5.4%
投資活動に関するキャッシュ・フロー		△ 233		△ 270		37
フリー・キャッシュ・フロー		410		11		399
財務活動に関するキャッシュ・フロー		△ 364		△ 129		△ 235

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

22

続いて、P.22は『連結キャッシュフロー』です。

在庫圧縮などの取組みが奏功し、当累計期間の営業キャッシュフローは、644億円のポジティブとなりました。

売掛債権回収、棚卸資産減が進んで、運転資本が縮減でき、前年比で362億の改善となりました。

投資キャッシュフローにおいても、前年比37億低減の233億円の支出に抑えたことで、フリーキャッシュフローも、410億円を確保しました。

要約連結損益計算書(予想)

HITACHI

Reliable Solutions

前回7月に公表した業績予想を見直し、売上収益は前年比4%の減収、調整後営業利益は10%の減益、親会社株主に帰属する当期利益は14%の減益を見込む。

(単位:億円)

	24年度		23年度		前年比	
	予想		実績		金額	増減率
継続事業						
売上収益	<13,700>	13,500	14,059		△ 559	△ 4%
調整後営業利益	<12.0%>	(11.2%)	(12.0%)		(△0.8%)	
	<1,650>	1,510	1,680		△ 170	△ 10%
営業利益	<11.8%>	(11.1%)	(11.6%)		(△0.5%)	
	<1,610>	1,500	1,627		△ 127	△ 8%
税引前当期利益	<11.0%>	(9.4%)	(11.4%)		(△2.0%)	
	<1,510>	1,270	1,605		△ 335	△ 21%
継続事業からの当期利益	<1,064>	890	1,163		△ 273	△ 23%
非継続事業からの当期利益	<7>	0	△ 118		118	-
親会社株主に帰属する当期利益	<7.2%>	(5.9%)	(6.6%)		(△0.7%)	
	<980>	800	933		△ 133	△ 14%
EBIT	<1,654>	1,398	1,675		△ 276	
通貨	1Q-2Q	3Q-4Q	年度	23年度	前年比	
	実績	予想	予想	実績		
アメリカドル	152.7	141.0	145.5	144.8	0.7	
ユーロ	166.0	155.0	159.9	157.0	2.9	
中国元	21.1	19.8	20.4	20.1	0.2	
オーストラリアドル	101.3	96.0	98.7	95.0	3.6	
1株当たり配当金 *1	175円			150円	25円	

*1 [1株当たり配当金]は、連結業績に連動した剰余金の配当を原則として、中間と期末の2回に分けて同一年度に2度実施する方針であり、連結配当性向30%~40%を目安に安定的かつ継続的に実施することを基本として株主利益の最大化を図ります。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

23

為替感応度は
参考資料1を
ご参照ください

続いて、今回の24年度業績予想をご説明します。

スライドP.23 『要約連結損益計算書(予想)』をご覧ください。

これまでご説明して参りました上半期の需要環境、実績を鑑み、今年度業績予想については前回7月に据え置いた業績予想を若干ですが下方修正します。

具体的には本スライドの通り、売上収益で、前回予想と比べ200億減の1兆3,500億円、調整後営業利益は140億減の1,510億円、これらの結果、親会社株主に帰属する当期利益を800億円に修正します。

調整後営業利益率は11.2%を見込みます。

下期においては、当初見込んでいた下期からの市況回復が北米を中心として、翌年度以降に遅れ、欧州、アジアも含めた主力市場の物量減少を慎重に織込み、下方修正するものです。

尚、前提となる下期予想為替レートにつきましては、米ドル141円に据え置く一方、ユーロ他の主要通貨については、ご覧の通りに一部前回レートを円安修正しました。

これらの為替レート設定により、下期には為替評価損は発生しない前提です。

結果として、親会社株主帰属の当期利益も下方修正したものの、年間配当は175円と当初予想を維持して、株主の皆様のご期待にお応えしたいと考えています。

P.29に、参考資料1.として、第3四半期以降の売上収益と調整後営業利益に影響する為替感応度を掲載しましたので、ご参考願います。

要約地域別売上収益(予想)

HITACHI

Reliable Solutions

前回7月公表値に対し、北米、オセアニアにて減収修正。

(単位：億円)

	24年度 予想		23年度 実績		前年比		
	金額	増減率	金額	増減率	金額	増減率	
日本	2,230	17%	2,269	16%	△39	△2%	
アジア	1,176	9%	1,270	9%	△95	△7%	
インド	869	6%	850	6%	19	2%	
オセアニア	2,571	19%	2,511	18%	60	2%	
欧州	1,464	11%	1,829	13%	△364	△20%	
米州	北米	3,206	24%	3,344	24%	△138	△4%
	中南米	414	3%	409	3%	5	1%
	3,620	27%	3,752	27%	△133	△4%	
内:独自展開	(2,246)	(17%)	(2,175)	(15%)	(72)	(3%)	
ロシアCIS	222	2%	234	2%	△12	△5%	
中東	307	2%	347	2%	△41	△12%	
アフリカ	736	5%	704	5%	32	5%	
中国	305	2%	292	2%	13	4%	
合計	13,500	100%	14,059	100%	△559	△4%	
海外売上収益比率	83%		84%				

* 23年度の実績及び24年度予想について継続事業のみの値としています。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

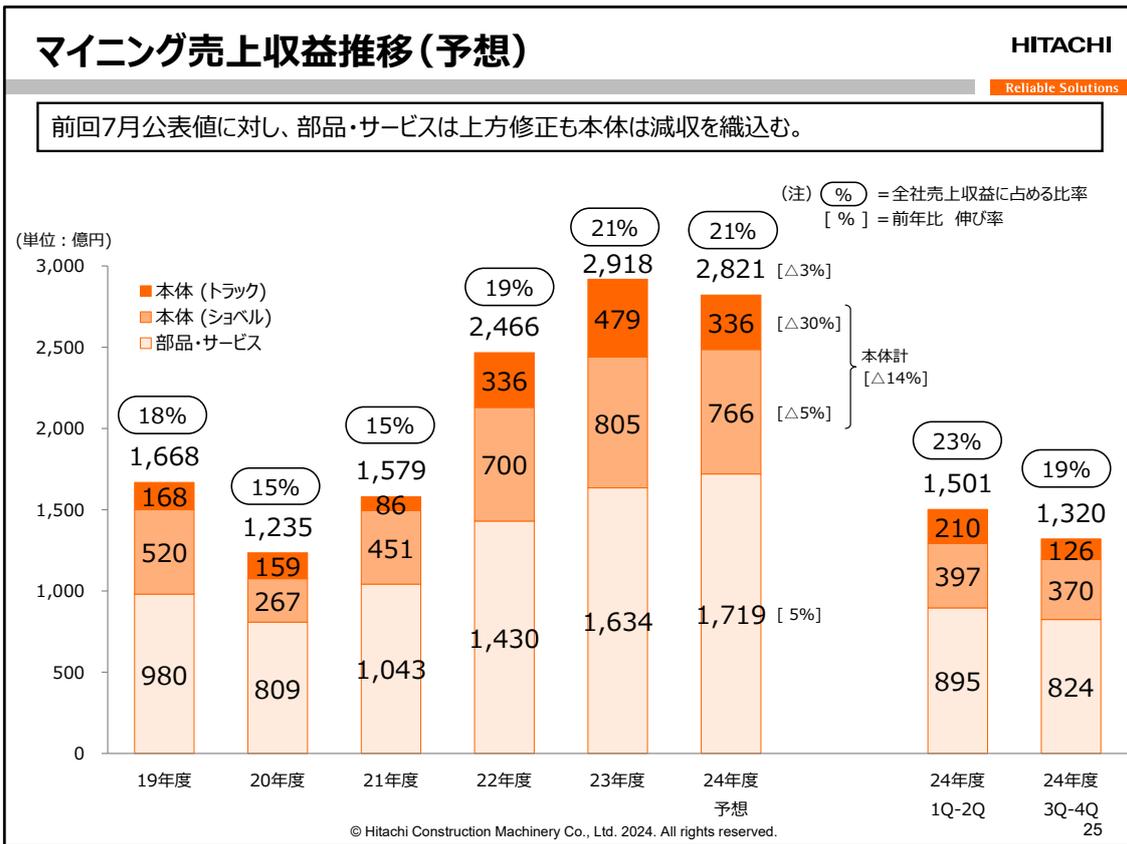
24

続いて、P.24 は『地域別売上収益の予想』です。

売上収益見通しは、前回予想を200億引き下げた13,500億円と申し上げましたが、前年度と比べると559億減収となり、為替円安影響は152億の増収要因となります。

アジア、欧州で大きく減収を見込む他、北米ではシェアが計画通りに伸長しているものの、代理店在庫が充足したことから減収を織込みますが、一方で、オセアニア、アフリカ、インドでは増収を織込んでいます。

尚、海外売上高比率は、前年比1ポイント減の83%を見込みます。



次に、P.25は『マイニング売上収益予想』です。

本年度のマイニング売上は、前年比3%減収の2,821億円を見込みます。

7月時見通しより24億の減収修正を織込みますが、引き続き、高い水準での収益を維持します。

前回公表値との比較では、オセアニアにてトラック受注案件が販売からレンタル契約に変更となったことによる本体売上の減収と、アフリカ、中南米での部品・サービス増収を織込みました。

機械本体はトラックとショベル合計で、前年比14%の減収を見込む一方、部品サービスでは5%増収の予想です。

売上構成比は、前年同様の21%を見込みます。

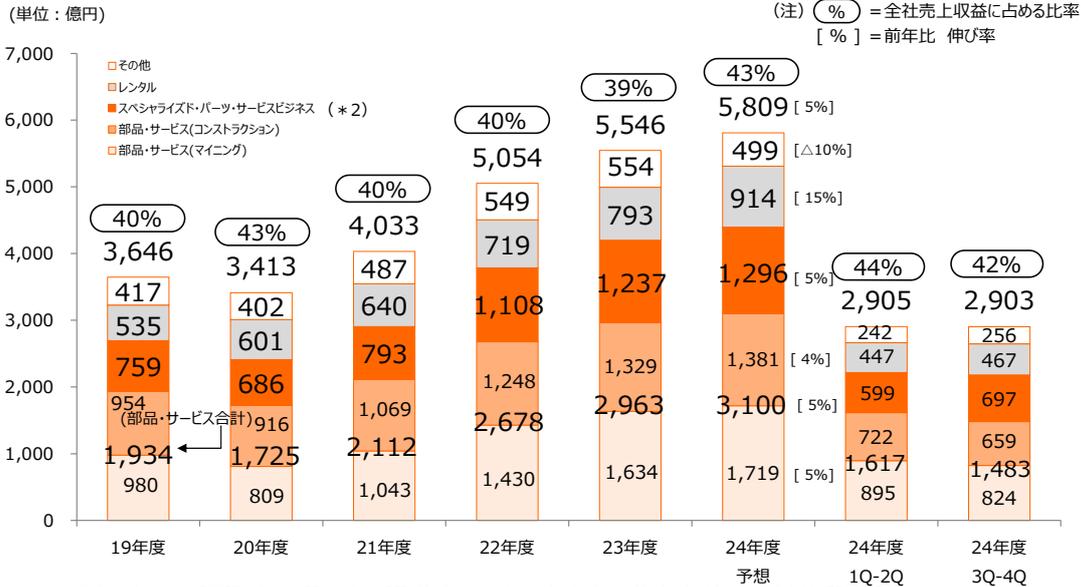
尚、P.30に参考資料 2. として地域別の『マイニング売上収益内訳』を掲載していますので、ご参考願います。

バリューチェーン*1 売上収益推移(予想)

HITACHI

Reliable Solutions

7月公表値を上方修正。部品・サービス、スペシャライズド・パーツ・サービスビジネス、レンタルで増収を織込む。



*1 バリューチェーン：新車販売以外の事業である部品・サービス、スペシャライズド・パーツ・サービスビジネス、レンタル等の事業合計
*2 スペシャライズド・パーツ・サービスビジネス：建設機械ビジネスセグメントに含まれないマイニング設備及び機械のアフターセールスにおける部品開発、製造、販売及びサービスソリューションの提供
19年度実績より継続事業のみの値として、遡及修正しています。
© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

続いて、P.26『バリューチェーン売上収益推移(予想)』をご覧ください。

本年度のバリューチェーン売上収益は、前年比5%増収の5,809億円を見込みます。

前回見通しより、部品サービス、スペシャライズド・パーツ・サービス、並びにレンタルを主体に113億の増収修正を織り込むと共に、引き続き過去最高収益の更新をめざします。

個別では、部品サービスを、コンストラクション・マイニング向け合計で前年比5%増の3,100億、スペシャライズド・パーツ・サービスで5%増の1,296億円、レンタルにおいても15%増の914億を夫々見込みます。

新車本体の売上収益が伸びない時でも、バリューチェーン事業が全体の業績を大きく底支えていることは、我々の進むべき方向性を裏付けていると考えております。

売上構成比は、前年比4%増の43%を見込みます。

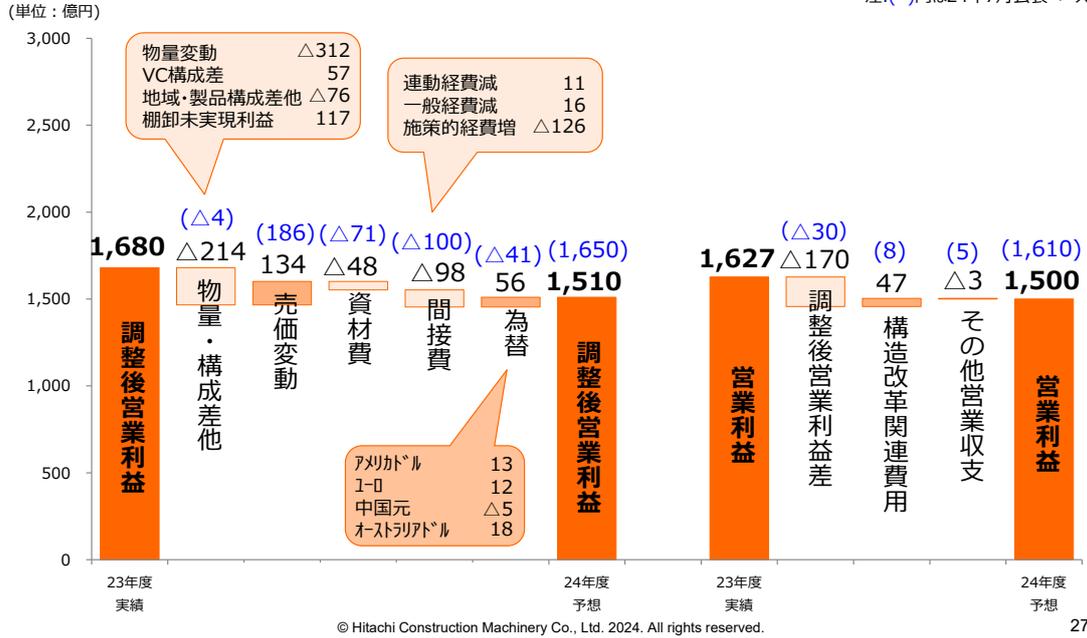
連結損益変動要因(予想)

HITACHI

Reliable Solutions

バリューチェーンの伸長はあるも、物量・構成差減、売価改善幅縮小で、調整後営業利益は減益修正。

注.()内は24年7月公表ベース



続いて、P.27『連結損益変動要因(予想)』をご覧ください。

24年度 調整後営業利益が前年比で170億の減益を見込む1,510億円となる要因をご説明します。

まず、物量・構成差として214億の減益を織込みます。

内訳として、物量変動312億の減益が大きいです。

加えて、利益率が比較的に高い北米向け売上、並びにマイニング本体売上の減による構成差悪化等で76億の減益を織込みます。

一方、在庫縮減が進むので、棚卸未実現で117億の利益押上げを見込んでいます。

売価変動については、134億に改善幅を縮小しますが、資材費48億増、及び間接費98億増の大方の吸収を織込みます。

上期の増益効果が大きく、通年で56億の為替増益を見込みますが、これらの結果、調整後営業利益は前年比170億円の減益となります。

ページ右側、営業利益も、調整後営業利益の減益が大きく、現時点で大口の案件を見込まない構造改革費用で47億の増益を織込むものの、前年比127億減益の1,500億円を予想します。

トピック(4) : 日立建機グループ 統合報告書2024の発行

HITACHI

Reliable Solutions



以下のURLから全頁ダウンロードいただけます。ぜひご覧ください。

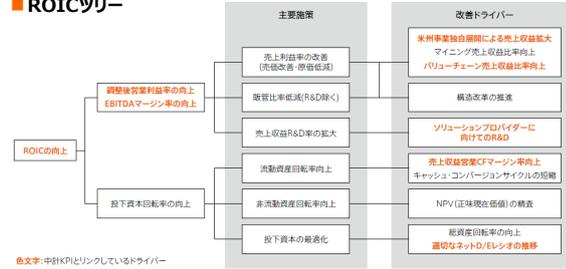
<https://www.hitachicm.com/global/ja/sustainability/download/>

■ CFOメッセージ

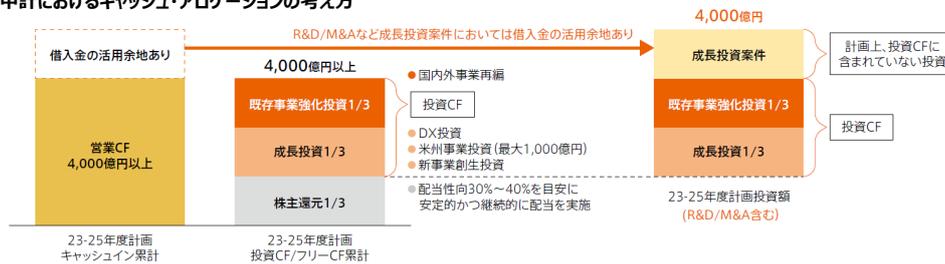
資本生産性の向上が
企業価値を高める認識のもと、
中期経営計画に連動する
財務・資本戦略の遂行に努めます。



■ ROICツリー



■ 現中計におけるキャッシュ・アロケーションの考え方



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

28

最後に、この9月に2024年度版 統合報告書を発刊しましたのでご紹介します。

当社グループがめざす成長ストーリーについて、ご理解を深めていただく一助となるよう、情報開示の領域拡大に努めました。

CEO/COOメッセージに加え、特に今回は、注力しているバリューチェーン事業と人的資本経営を特集し、当社グループがめざす「真のソリューションプロバイダー」に向けて推進している活動を紹介します。

私が担当した財務・資本戦略のパートでは、キャッシュ・アロケーションやROIC ツリーなどを初めて図示し、具体的な説明に努めました。

また、IR 情報では、投資家のみなさまとの対話状況について新たに掲載しました。

是非、ご一読いただけますと幸いです。

尚、次ページ以降に参考資料を4枚付けておりますので、ご参照下さい。

以上、ご説明を終わります。有難うございました。

参考資料 1 : 為替レート及び為替感応度

HITACHI

Reliable Solutions

24年度予想レートは、前回7月公表時よりユーロ、オーストラリアドルは円安に、中国元は円高に設定。

為替レート及び為替感応度

(単位:億円)

通貨	為替レート				感応度(3Q-4Q)		
	24年度			23年度 実績	基準	売上収益	調整後 営業利益
	1Q-2Q 実績	3Q-4Q 予想	年度 予想				
アメリカドル	152.7	141.0	145.5	144.8	1円円安になった場合	18	11
ユーロ	166.0	155.0	159.9	157.0	1円円安になった場合	4	2
中国元	21.1	19.8	20.4	20.1	0.1円円安になった場合	1	0
オーストラリアドル	101.3	96.0	98.7	95.0	1円円安になった場合	13	2

参考資料 2 : マイニング売上収益内訳

HITACHI

Reliable Solutions

(金額：億円)

		24年度予想			23年度実績			差額		
		1-2Q累	3-4Q累	年度	1-2Q累	3-4Q累	年度	1-2Q累	3-4Q累	年度
米州	ショベル	151	210	361	141	221	362	10	△ 11	△ 1
	トラック	68	35	104	40	70	109	29	△ 34	△ 5
	計	220	245	465	181	291	471	39	△ 45	△ 6
欧阿中東	ショベル	143	175	318	137	206	343	6	△ 31	△ 25
	トラック	241	158	398	127	229	356	114	△ 72	42
	計	383	333	716	264	436	700	120	△ 103	17
アジア・大洋州	ショベル	650	514	1,165	609	591	1,201	41	△ 77	△ 36
	トラック	207	189	395	284	225	508	△ 77	△ 36	△ 113
	計	857	703	1,560	893	816	1,709	△ 36	△ 113	△ 149
中国	ショベル	34	34	68	7	18	25	27	16	43
	トラック	1	0	1	0	0	0	1	0	1
	計	35	35	70	7	18	25	28	16	45
日本	ショベル	6	4	10	5	4	9	2	0	1
	トラック	0	0	0	0	4	4	0	△ 4	△ 4
	計	6	4	10	5	8	13	2	△ 4	△ 3
合計	ショベル	985	938	1,922	898	1,042	1,940	86	△ 104	△ 18
	トラック	517	382	899	450	527	978	66	△ 145	△ 79
	計	1,501	1,320	2,821	1,349	1,569	2,918	152	△ 249	△ 97

参考資料3：セグメント情報

HITACHI

Reliable Solutions

スペシャライズド・パーツ・サービスビジネスの調整後営業利益は、PPA（資産再評価）償却費として24年度第2四半期累計実績には6億円、24年度予想にも12億円をそれぞれ含む。

(単位：億円)

24年度 第2Q累計	報告セグメント		調整額 *1	連結財務諸表 計上額
	建設機械 ビジネス	スペシャライズド・パーツ・ サービスビジネス		
売上収益	6,058	645	△ 46	6,657
調整後営業利益	10.6% 643	10.9% 70	-	10.7% 713

(単位：億円)

24年度 予想	報告セグメント		調整額 *1	連結財務諸表 計上額
	建設機械 ビジネス	スペシャライズド・パーツ・ サービスビジネス		
売上収益	12,204	1,342	△ 46	13,500
調整後営業利益	11.0% 1,338	12.8% 172	-	11.2% 1,510

*1 [調整額]は、セグメント間取引消去額、及び事業セグメントに帰属しない全社に係る金額です。

参考資料4：連結設備投資、減価償却費、研究開発費の実績及び見通し

HITACHI

Reliable Solutions

24年度は、主に国内製造拠点の再編による設備投資の増加を見込む。

1.設備投資（工事ベース）

(単位：億円)

	21年度	22年度	23年度	24年度	24年度	24年度
	実績	実績	実績	1-2Q累 実績	3-4Q累 予想	
設備投資	453	751	587	240	432	672
貸用営業資産	443	442	503	292	541	833
合計	896	1,193	1,090	533	972	1,505

2.減価償却費（有形・無形固定資産）

(単位：億円)

	21年度	22年度	23年度	24年度	24年度	24年度
	実績	実績	実績	1-2Q累 実績	3-4Q累 予想	
設備投資	369	405	437	241	237	477
貸用営業資産	179	216	235	128	137	265
合計	548	621	672	369	373	742

3.研究開発費

(単位：億円)

	21年度	22年度	23年度	24年度	24年度	24年度
	実績	実績	実績	1-2Q累 実績	3-4Q累 予想	
グループ合計	255	244	314	172	182	354

日立建機グループでは、持続可能な開発目標(SDGs)の17の目標のうち、**10項目の重点目標を設定しています。**

当資料内のトピックスはこの区分に該当するアイコンを表記し、紹介しています。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

Hitachi Construction Machinery Group

LANDCROS

Japanese Excellence—Reliable Solutions

真のソリューションプロバイダーへ

「革新的ソリューションをすべてのステークホルダーに提供したい」

LANDCROSはその想いの証です。

END

【見通しに関する注記事項】

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。実際の業績は、様々な要因の変化により、記載の予想、計画、見通しとは大きく異なることがあり得ます。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが含まれます。

【商標注記】

「AERIAL ANGLE」「ConSite」「Solution Linkage」「ZCORE」は、日立建機株式会社の登録商標です。

2024年10月25日

 日立建機株式会社